

早期景気観測調査

【8-9月期 調査結果概要報告書】

平成24年10月



甲府商工会議所

◆調査要領

1. 調査の目的： 山梨県内で最も速報性の高い『街角の景況感』を把握する調査として中小企業の明日の経営活動に資する。
2. 調査実施機関： 甲府商工会議所
3. 調査実施時期： 平成24年9月18日(火)～30日(日)
4. 調査対象： 当所会員 165事業所
5. 調査方法： ファクシミリによるアンケート方式
6. 回収数： 130
7. 回収率： 78.8%
8. 特記事項： 原則、小数点以下第二位で四捨五入

◆結果概要

【8－9月期の動き】

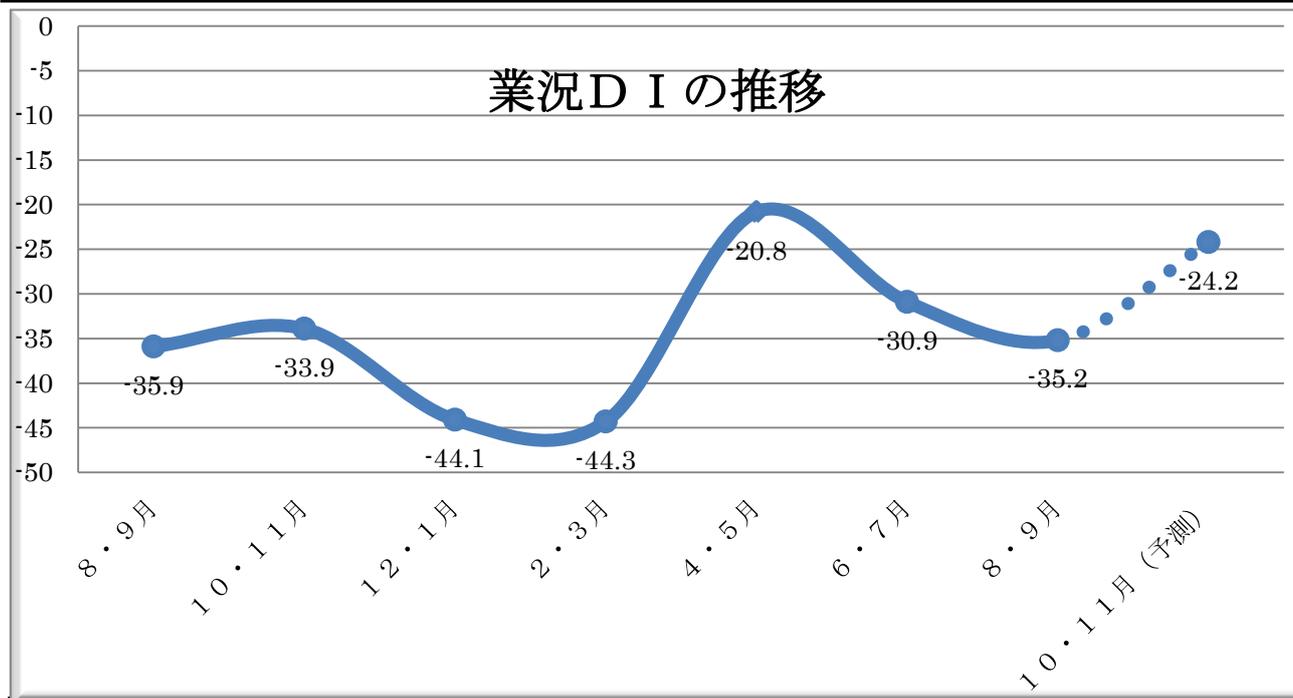
業況DIは続落。先行きは改善も懸念材料多く

8－9月期の全業種総合の業況DIは▲35.2と、前期から4.3ポイント悪化した。前期の調査において大幅な業況の悪化が見られた卸売業・建設業は回復傾向にある一方、製造業・小売業・サービス業の業況が悪化しており、2期連続の業況悪化となった。

製造業においては、とりわけ工業製品関連の業況が悪く、原材料価格の高騰や電力価格の上昇、価格競争の激化等が収益を圧迫している。加えて、在庫調整が進んでいる可能性もある。小売業においては、上昇する仕入単価を適正に価格転嫁できていないものと推察される。さらに、イオンモール甲府昭和の増床問題も経営者マインドに悪影響を及ぼしていると思われる。また、サービス業においては、客単価の下落と客数の減少により、厳しい業況が続いている。

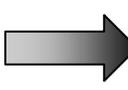
今後の見通しに関しては、先行き業況DIが▲24.2（今期比+11.0ポイント）となっており、大幅な改善が見込まれている。

今後の県内経済は、製造業の復調と個人消費の回復がカギとなろう。しかしながら、超円高の定着や原油価格の高騰、エコカー補助金終了による内需の減速等、先行きへの懸念材料も多い。よって、今後の業況には多くの下振れリスクが内在しており、引き続きマクロ環境の動向を慎重に見極める必要がある。



◆全業種・業種別詳細

◆指標の見方

前回D I に比べて (先行は今回実績値に比べて)		
好転	不変	悪化
		
D I 値	D I 値	D I 値

※ D I 値 (景況判断指数) について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

◆全業種総合

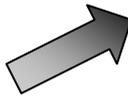
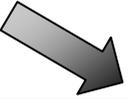
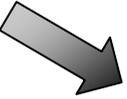
業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲35.2	▲24.2	▲21.9	▲32.8	▲19.5	▲2.3	▲3.9

8-9月期の全産業の業況D I は、**▲35.2** (前期比**-4.3**ポイント) となり、2期連続の悪化となった。仕入れ単価D I が大きく悪化しており、採算・金融貸出しD I については引き続き悪化傾向にある。一方、売上・従業員D I は小幅ながら改善している。

先行きに関しては大幅な改善を見込んでいるが、先行きへの懸念材料も多く、下振れする可能性がある。

◆ 業種別

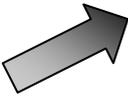
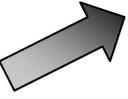
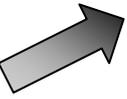
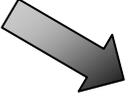
製造業

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 23.5	▲ 5.9	▲ 17.6	▲ 17.6	▲ 20.6	▲ 5.9	▲ 2.9

業況DⅠは前期までの好調から一転して、大幅な悪化となった。金融貸出しDⅠを除く全てのDⅠが悪化しており、とりわけ仕入単価DⅠの悪化が著しい。

業況DⅠに関する今後の見通しについては、再び改善に向かい前期の水準を上回るものとみられる。

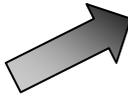
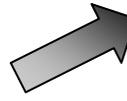
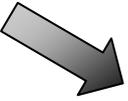
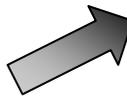
建設業

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 45.5	▲ 50.0	▲ 18.2	▲ 50.0	▲ 18.2	▲ 9.1	▲ 18.2

業況DⅠは前期の急速な悪化から一転して、大幅な改善となった。仕入単価・金融貸出しDⅠは悪化したものの、売上・採算・従業員DⅠは改善しており、とりわけ売上DⅠの改善が著しい。

業況DⅠに関する今後の見通しについては、再び悪化に向かうものとみられ、恒常的に厳しい業況が伺える。

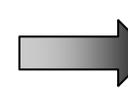
卸売業

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 30. 0	▲ 15. 0	▲ 15. 0	▲ 20. 0	▲ 15. 0	5. 0	5. 0

業況D Iは前期の大幅な悪化から一転し、小幅ながら改善した。従業員・金融貸出しD Iは改善し、売上・採算・仕入単価D Iは悪化している。とりわけ、仕入単価D Iは大きく悪化している。

業況D Iに関する今後の見通しについては、引き続き改善傾向を辿るものとみられる。

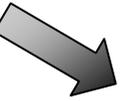
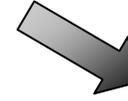
小売業

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 48. 6	▲ 25. 7	▲ 37. 1	▲ 45. 7	▲ 20. 0	2.9	0. 0

業況D Iは前期までの改善傾向から悪化に転じた。売上・従業員D Iは改善し、金融貸出しD Iは不変であったが、採算・仕入単価D Iが悪化している。とりわけ、仕入単価D Iの悪化が著しい。

業況D Iに関する今後の見通しについては、再び改善に向かい前期の水準を上回るものとみられる。

サービス業

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 23.5	▲ 35. 3	▲ 11. 8	▲ 29. 4	▲ 23.5	▲ 5.9	▲ 5.9

業況D Iは2期連続の悪化となった。全てのD Iが悪化しており、とりわけ従業員D Iの悪化が著しい。

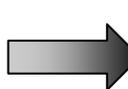
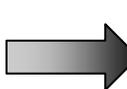
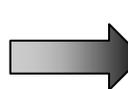
業況D Iに関する今後の見通しについては、更に悪化するものとみられる。

◆ 業種別詳細

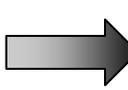
製造業（食品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

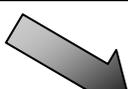
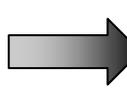
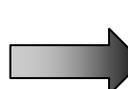
製造業（家具）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

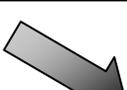
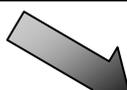
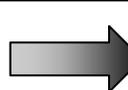
製造業（工業製品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

製造業（宝飾）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

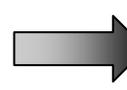
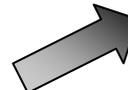
製造業（繊維）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

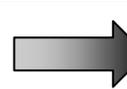
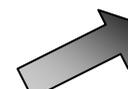
建設業（建築）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

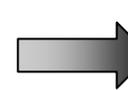
建設業（土木）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

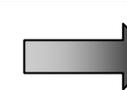
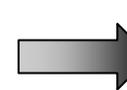
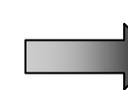
建設業（鉄鋼）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

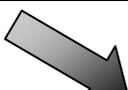
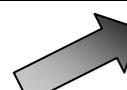
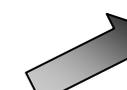
卸売業（食品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

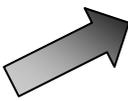
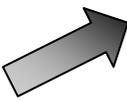
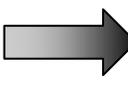
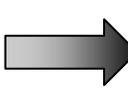
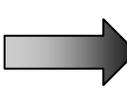
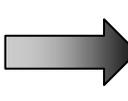
卸売業（繊維）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

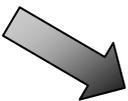
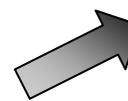
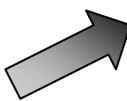
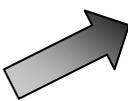
卸売業（その他）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

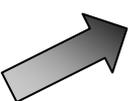
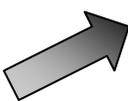
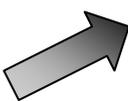
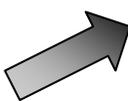
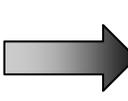
小売業（大型店）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

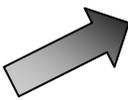
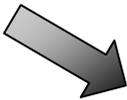
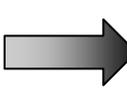
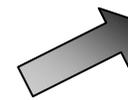
小売業（食料品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

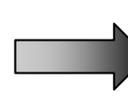
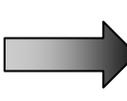
小売業（事務用品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

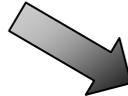
小売業（趣味・日用品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

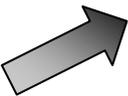
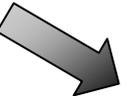
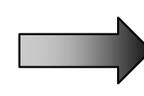
小売業（家電）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

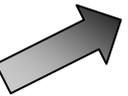
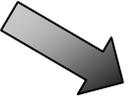
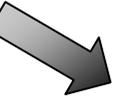
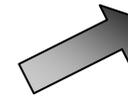
サービス（ホテル・旅館）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

サービス業（観光）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

サービス業（飲食その他）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

➤ 中小企業の声（現状や直面してる課題）

製造業（食品）

- ・ 甲州ワインに特化した効果が現れてきた。課題は、原料となる甲州種ぶどうの安定確保。
- ・ 消費税。
- ・ 中国への輸出について、しばらく様子を見ている状態。
- ・ 原材料の高騰、品薄状態が予測される。

製造業（家具）

- ・ 消費増税で、不況が来るのではないかと心配している。

製造業（工業製品）

- ・ 先行きの仕事量に対する不安が大きい。
- ・ 受注の減少と価格競争の激化。円高。
- ・ 電力コストの上昇による損益悪化。受注量の低迷。

卸売業（食品）

- ・ 残暑が厳しく、主力商品である菓子の売上が伸び悩んでいる。

卸売業（繊維）

- ・ 政治の安定。選びたい政治家が不在。
- ・ 古い店舗の収益悪化。

卸売業（その他）

- ・ 価格競争が激化している。
- ・ イオンモールの増床では、イトーヨーカ堂やラザウォークが困るのではないか。県や会議所が反対しているのはありがたい。
- ・ イオンモールが自社の利益のみを中心に考えているなら、甲府という地域社会を破壊する大きな妨害行為である。
- ・ 中心商店街への来街者の減少。
- ・ 医薬品のネット販売。
- ・ 専門技術者の高齢化と不足

サービス業（ホテル）

- ・夏の観光シーズンの利用客は多く、大きな建築物がいくつかあるので、他の旅館・ホテルも期待したが、ほとんど利用客がないところもあり、客単価を下げても難しいと感じた。大手ビジネスホテル等の利用に回っているようだ。

サービス業（観光）

- ・去年に比べれば、団体客の人数が減少しているようだ。

サービス業（飲食その他）

- ・8月、9月は前年より弱含みであるが、年末に向けて好転すると思われる。
- ・先日、うなぎが絶滅危惧種に指定された。今後もうなぎの供給がどうなっていくのか、注視せざるをえない。
- ・売上の悪化、中心街の人出の減少による業況の悪化、客単価の低下など。
- ・うなぎ料理中心の和食店のため、今年もうなぎの仕入れ値の高値水準によりとても苦しんだ。

建設業（建築）

- ・競争激化のため、売上が減少している。また、受注単価が減少する一方で、仕入単価が増加しているため、利益率が低下している。
- ・公共工事と民間設備投資の減少により業績が悪化している。
- ・売上の減少。
- ・価格競争の激化と技術者の不足。忍耐強く勤めて頂ける若い人材がいない。

建設業（土木）

- ・若年世代の技術者育成（レベルアップ、コスト負担、心の教育）が重要課題。
- ・公共工事や民間工事も仕事が減少しており、低価格競争下におかれている小企業は、採算割れで倒産の方向に進んでいる。

建設業（鉄鋼）

- ・建機の一部輸出向け部品の溶接を行っているが、生産調節で半減している。
- ・ゼネコンの受注に左右され、今回は忙しかった。今後の仕事量については、どこの会社も不安だと思われる。

